

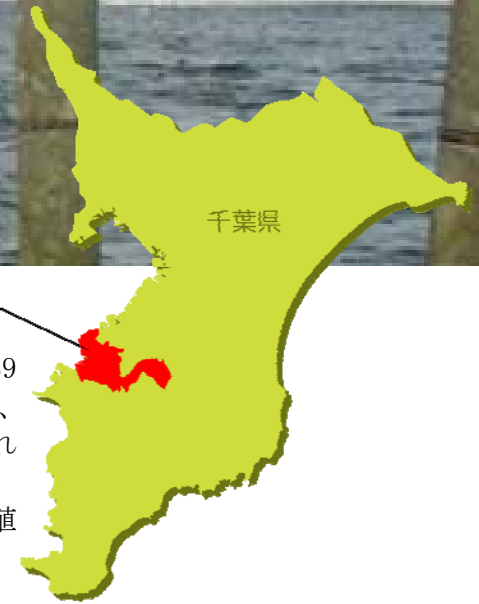
木更津市グループの取組み

水産多面的機能発揮対策

1. 地域の概要

当グループが活動する木更津市は、房総半島のほぼ中央部の西海岸に位置し、東京湾に面して東西に22km、南北に15km、面積139平方kmを有している。東京湾アクアラインの開通により、都心からわずか1時間という地理的条件を有したため、人口が増加傾向にあり、近年は大型商業施設が次々開業しており、このような交通の利便性から、春から夏にかけて、都心から大勢の観光客が「潮干狩り」に訪れる。

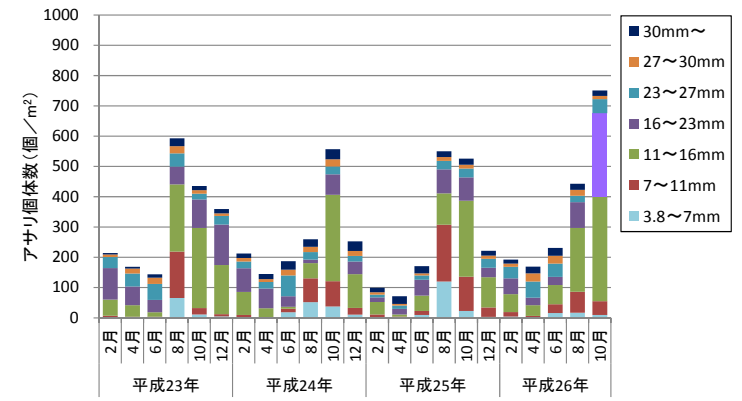
木更津市の海岸線は約16km、その沖合には盤洲干潟と呼ばれる東京湾随一の干潟が広がり、この遠浅の海は、ノリ養殖や貝類養殖の絶好の漁場となっている。このため、木更津の多くの漁業者が海苔養殖や採貝業に従事し、干潟に依存した漁業形態となっている。



木更津市

2. 地域(干潟)の現状と課題

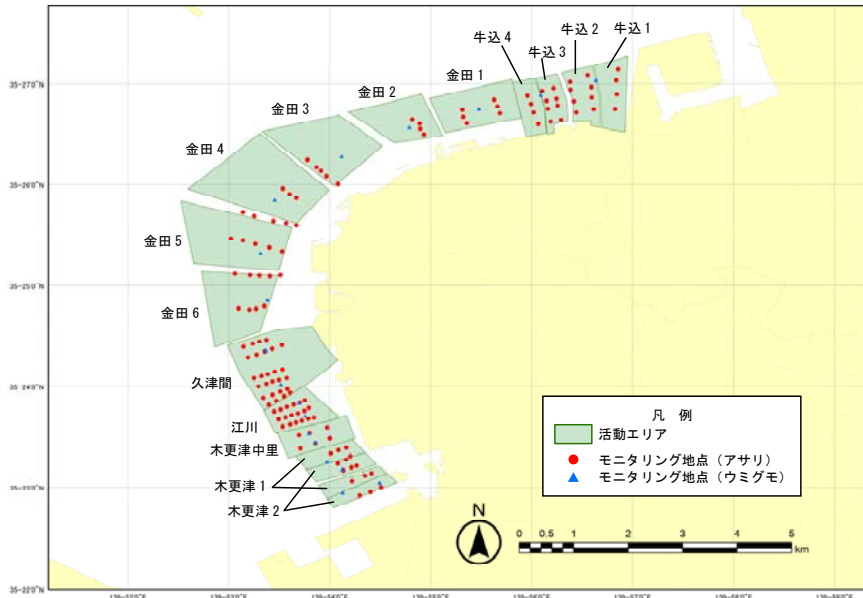
採貝漁業の主要な貝類であるアサリの漁獲量は、平成19年以降激減し、現在も低迷状態が続いている。原因として、ノリ養殖支柱柵が減少し、干潟に入る波が大きくなったこと、食害生物のスズガモ飛来数が多くなったこと、アサリを食害するツメタガイやアオサの繁茂による環境悪化、平成19年以來、カイヤドリウミグモという寄生生物が発生し、アサリが死滅したことなどがあげられ、これらの複合要因によって漁業に大きな被害が発生している。



木更津市のアサリ資源量の変化

3. グループ(活動組織)の概要

上記課題に対応するため、平成23年度から環境・生態系保全対策、平成25年度からは水産多面的機能発揮対策に取り組んでいる。市内6つの漁業協同組合の組合員と地域住民が中心となり、15の活動組織を設立し、「木更津市グループ」として地域一体となった活動を展開している。



干潟・浅場の保全活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	実施組織
客土												牛込漁協第1・2・3・4活動グループ
死殻の除去												金田、久津間、江川、中里、木更津活動グループ
機能低下を招く生物の除去(腹足類)												牛込、金田、久津間、江川、中里活動グループ
機能低下を招く生物の除去(節足類)												牛込、金田、久津間、江川、中里、木更津活動グループ
機能低下を招く生物の除去(その他)												牛込、久津間、江川、木更津活動グループ
保護区の設定												牛込、久津間、中里、木更津活動グループ
稚貝等の沈着促進												金田、久津間活動グループ
稚貝の密度管理												牛込、久津間、江川、中里、木更津活動グループ
機能発揮のための生物移植												久津間活動グループ
浮遊堆積物の除去												牛込、金田、江川、木更津活動グループ
モニタリング												全組織

※機能低下を招く生物の除去のうち、(腹足類)は主にツメタガイとその卵塊を、(節足類)はカイヤドリウミグモ、(その他)はアオサを中心に除去している。

4. グループ(活動組織)の活動状況



機能低下を招く生物の除去(アオサ)



機能低下を招く生物の除去(ツメタガイ)



稚貝の密度管理



死殻の除去



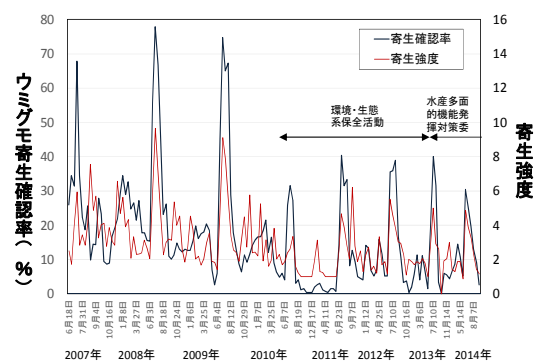
浮遊堆積物の除去

【機能低下を招く生物の除去(ウミグモ)】

2010年からの環境・生態系保全対策、2013年からの水産多面的機能発揮対策の大きな活動項目としてウミグモ除去を徹底して行い、完全に除去することは出来ないものの、アサリへの寄生率、寄生個体数ともに半減するとともに、ウミグモ寄生による死亡がほぼみられなくなり、除去成果が現れている。



ウミグモ



木更津地区のウミグモの寄生確認率と寄生強度*
*アサリに寄生しているウミグモの平均個数
注:2010年は自主努力による駆除

【保護区の設定】

近年のノリ養殖支柱柵の減少とともに波が大きいままで干潟に入るようになり、干潟沖側の侵食や冬季のアサリの減耗が大きくなるという深刻な傾向がみられるようになっている。この対策として、活動グループでは孟宗竹や孟宗竹割竹の柵による保護区を設置し、割竹柵の保護区では背面のアサリが保護され、漁獲に結び付く成果が得られている。



孟宗竹の設置



割竹の設置